



2018.6月
**がん哲学外来
ナース部会**
ニュースレター VOL. 13

11月23日（金・祝）ナース部会全国大会

『医療の隙間を埋める 看護師の役割』

順天堂大学にて開催決定しました。

日時：11月23日（金・祝） 14：00～16：30

場所：東京御茶ノ水・順天堂大学 10号館1F 大会議室

対象：がん哲学外来ナース部会員・看護師・看護学生・一般可

定員：120名

基調講演1 （調整中）

基調講演2 山崎智子先生

東京医科歯科大学大学院保健衛生研究科

がんエンドオブライフケア看護学分野准教授

パネルディスカッション （調整中）

座長：高山千春氏・三澤弥生氏（予定）

総括・挨拶 樋野興夫先生

順天堂大学病理・腫瘍学教授 がん哲学外来理事長

多くの方々のご参加をお待ちしております。

問い合わせ先：gantetsuns@yahoo.co.jp



『医師と患者の懸け橋』～がん哲学ナース部会の現代的意義～

がん哲学外来理事長・がん哲学外来ナース部会顧問 樋野興夫

11月23日（金・祝）ナース部会全国大会『医療の隙間を埋める 看護師の役割』（順天堂大学に於いて）の開催が決定されたとのことである。乞うご期待である。

筆者の夢は、七人の侍『勝海舟・新島襄・内村鑑三・新渡戸稲造・南原繁・矢内原忠雄・吉田富三』と、さらに、菅野晴夫先生（癌研時代）・Knudson博士（アメリカ時代）を交えて、天国で、「がん哲学外来カフェ」を開催することである。

教養ある人間とは、「自分のあらゆる行動に普遍性の烙印を押すこと」であり、「自己の特殊性を放棄して普遍的な原則に従って行為する人間」のことである。それは人間の直接的な衝動や熱情によって行動する代りに、つねに理論的な態度をとるように訓練されることである。』。すべての始まりは「人材」である。行動への意識の根源と原動力をもち、「はしるべき行程」と「見据える勇氣」、人間の身体と臓器、組織、細胞の役割分担とお互いの非連続性の中の連続性、そして、障害時における全体的な「いたわり」の理解は、「看護師」の在り方への深い洞察へと誘うのであろう。

「利己的な happy より、利他的な joyful」である。まさに「看護師は人に悪意を帰せず」、「看護師は人と利を争わず」の実践であらう。

**第4回がん哲学外来ナース部会シンポジウム
11/23がん哲学外来ナース部会全国大会開催によせて**

がん哲学外来ナース部会代表 （公財）東京都保健医療公社東部地域病院 看護師 上杉有希

おかげさまで、がん哲学外来ナース部会シンポジウムも第4回を迎えることができました。がん患者である看護師の発案の元、がん哲学外来カフェに集う看護師を中心にがん哲学外来ナース部会が立ち上げられたのは2015年10月。中心メンバーの入れ替わりなどもありましたが、OCCメディカルカフェのスタッフの皆様にも支えられ、がん哲学外来ナース部会の登録人数も50名となりました。感謝申し上げます。この度、11月23日（祝）には、樋野先生のご尽力にて順天堂大学での全国大会を行う事になりました。大きな会場でするので、がん哲学外来ナース部会員に限らず、看護師、看護学生、一般の方も含めて、みなさんとがん哲学外来を通して、今年度のテーマ「寄り添い」を中心に看護師の役割考えていきたいと思っております。みなさんのご参加をお待ちしております。

がん哲ナース募集中・HPがあたらしくなりました。

がん哲学外来ナース部会HP：<https://gantetsu-ns.jimdo.com/>

ナース部会ブログ <http://blogs.yahoo.co.jp/gantetsugakugairains>

がん哲学外来ナース部会 （一般社団法人がん哲学外来内）
顧問：一般社団法人がん哲学外来理事長 樋野興夫 /編集 上杉有希